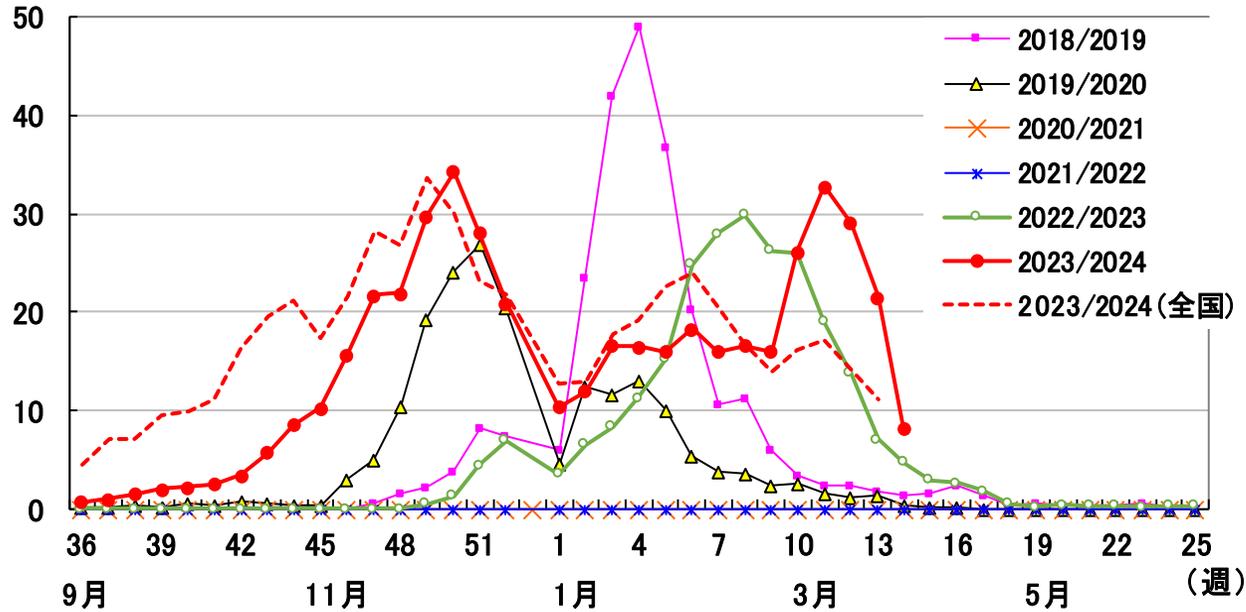


インフルエンザの発生状況(富山県)

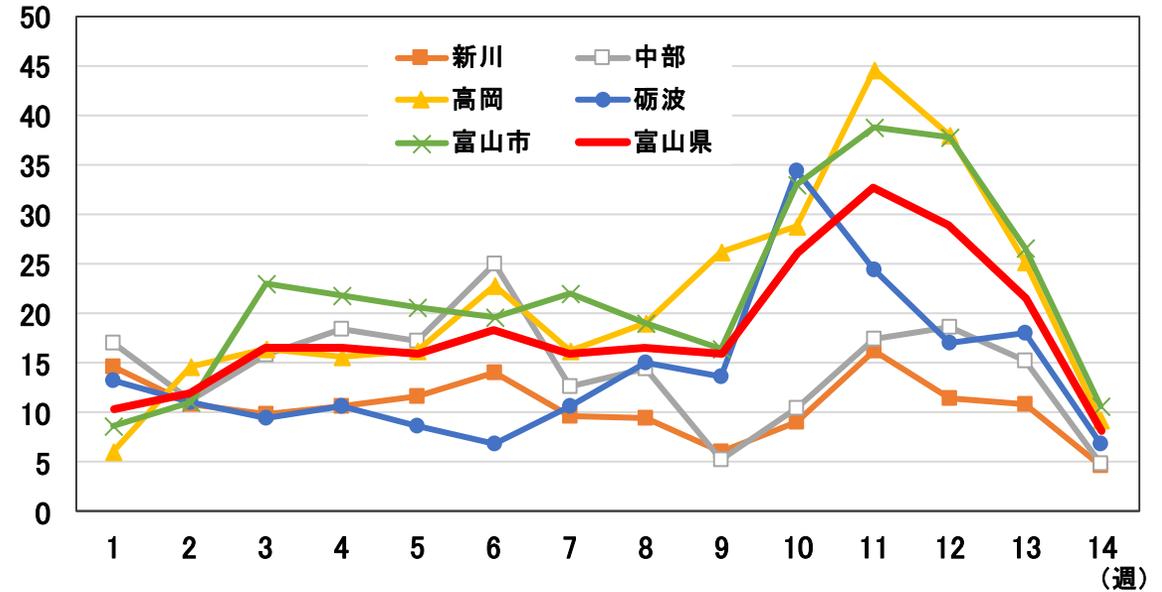
【第14週(2024/4/1~4/7) 感染症発生動向調査速報値 (2024/4/10時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数(図1)は今週(第14週) **8.21**人/定点となり、先週(21.54人/定点)から減少し、注意報レベルの目安である10人/定点を下回った。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、すべての管内で先週から減少した。

図3. 年代別割合(富山県、第14週)

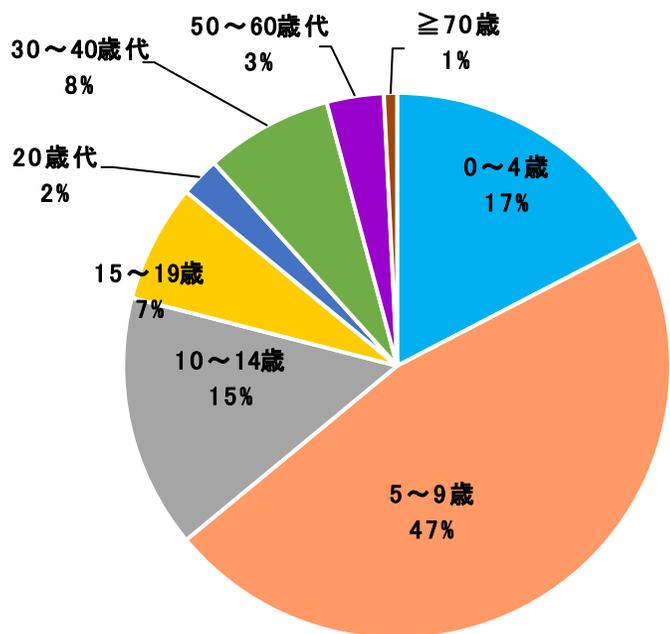
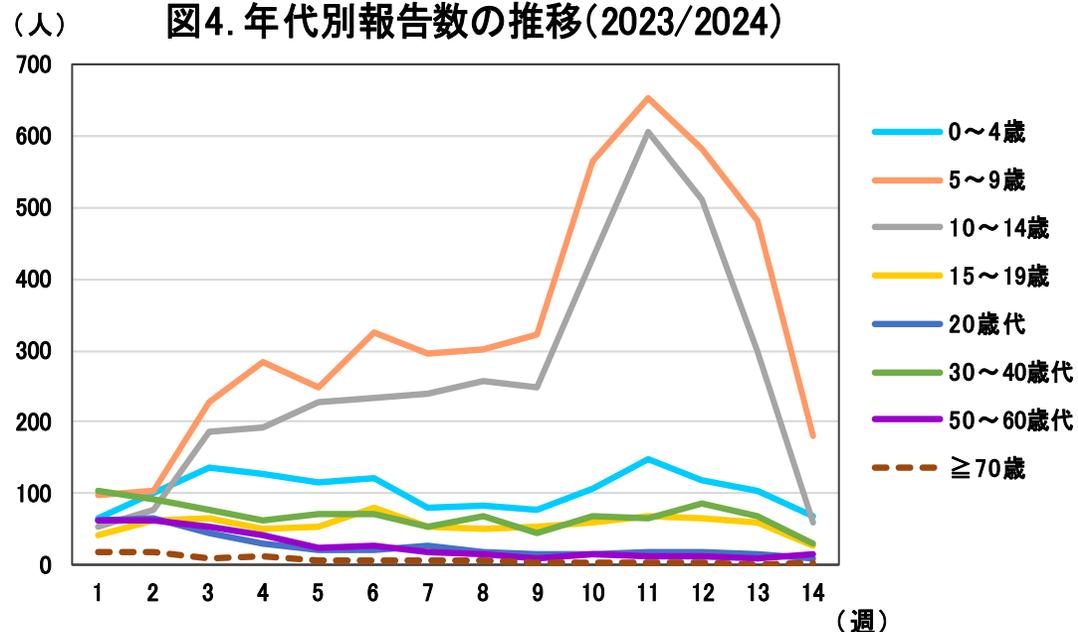


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第14週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が79%を占め、先週（85%）から減少した。
- 年代別報告数の推移（図4）では、すべての年代において先週と比較して減少または横ばいであった。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は、春休みのため報告はなかった。

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第13週)

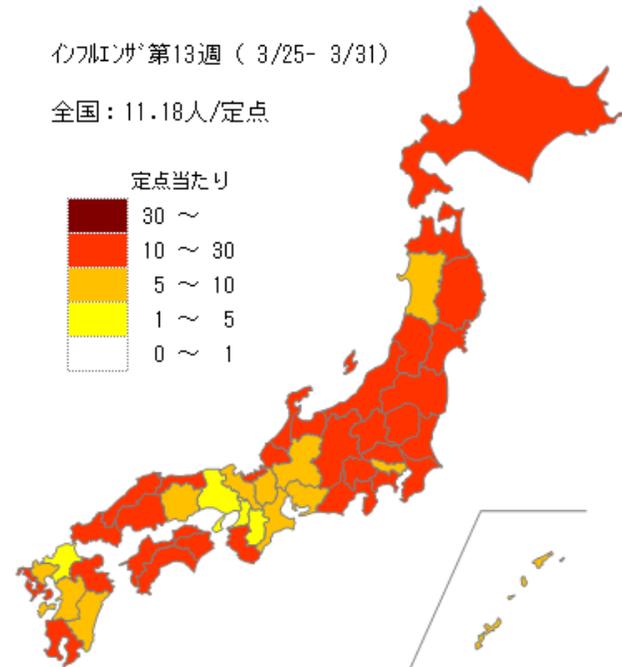
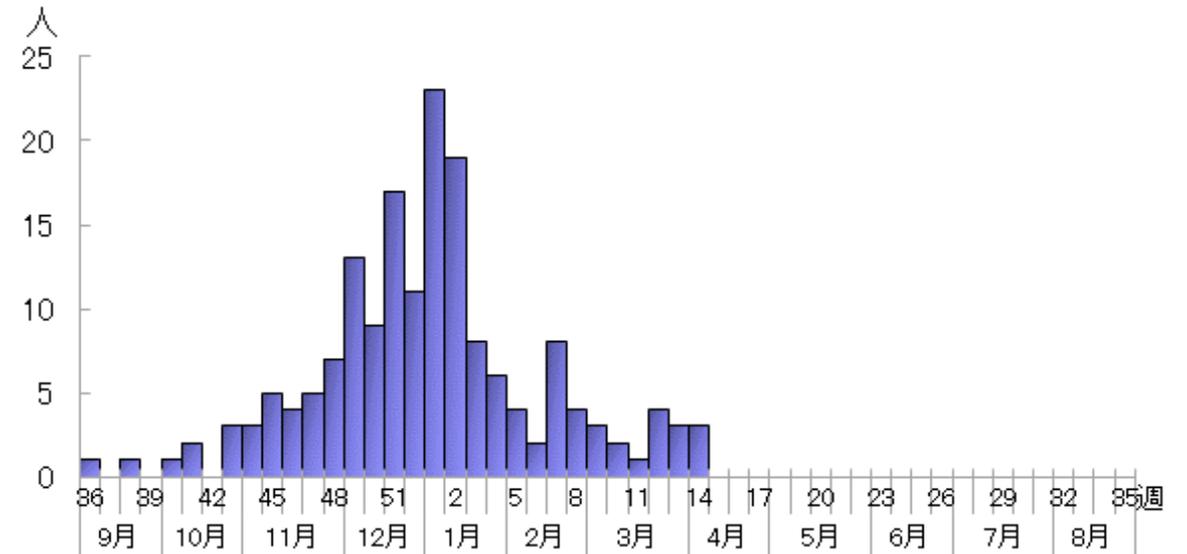


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第14週)



- 全国では第13週に11.18人/定点となり、第12週（14.08）から減少した。都道府県別（図5）では、31道県で注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第14週に3例（10歳未満）の報告があった。
- 県内のインフルエンザ定点の患者報告数は第11週をピークに減少が継続している。また、B型の検出割合は今週90.2%（先週：94.0%）となった（[富山県感染症発生動向速報2024年第14週](#)）。今後、学校の再開とともに感染の増加が懸念される。引き続き今後の発生動向を注視する必要がある。